

総合ゼミ（4年次）

【ゼミのテーマ】 「グローバル化と観光」というテーマに観光人類学・観光社会学・国際観光的視点からアプローチしようとする学生、もしくは、観光以外のテーマで、グローバル化が進展する中で途上国が直面する諸問題を検討しようとする観点から、アジア、とくに東南アジアの政治、経済、社会、文化を「地域研究」（エリア・スタディ）の方法で総合的に研究しようとする学生の「卒論作成の指導」を行う。

【ゼミの進め方】 下記の4点をみんながまもるルールとしてゼミ運営を行う。

1回に2～3名ずつ、卒論の中間報告を2回、最終報告を1回行う。

報告者は報告を行う1週間前に「報告要旨」を指導教授とゼミ・メンバー全員（メンバーにはEメールに添付して送ってもいい）に手渡す。この「報告要旨」（A4版用紙）は「本文」（4,000字）に「註」と「参考文献リスト」を付したものとする。

予定討論者（事前に決定しておく）はA4版用紙1枚にコメントを記し、報告日当日、全員に配る。

その他のメンバーも1週間前に配布される報告要旨をよく読んでゼミに出席し、積極的に議論に参加するとともに、指導教授の報告者に対する内容・形式に関するコメントをよく聞き、自分の卒論作成に反映させること。

[授業計画]

4月は打ち合わせ、論文作成の技術指導（亜細亜大学国際関係学部『卒業論文作成の手引き』改定第7版、その他）を行う。

5月連休明けから、卒論の中間報告を行う。6月初旬に学部に「総合ゼミ卒論中間報告」を提出することが制度化されているので、それまでに1回は必ず卒論中間報告を行う（1回3名程度）。

夏休み前に2回目の中間報告（1回3名）を行う（レジュメは2,000字とする）。

10月から卒論最終報告（1回2名）を行う（レジュメは本文4,000字、註、参考文献リスト）。

12月最初のゼミの日（卒論学部提出直前の木曜日）を、ゼミの卒論提出日とする。学部の定めた形式に則った完成原稿（概要書を含む）のチェックをこの日に行う。

[履修上の留意点]

卒論作成は自ら立てた問題について自分で情報を収集し、情報を鑑定し、良質の情報を正しく読み取り、それらを論理的に編集することによって、その問いに答える作業である。

指導教授や仲間や図書館などの助けを得ながら、自分が発見した問題に自ら答える絶好の機会をエンジョイして下さい。就職活動と重なり、卒論を書くのも一苦勞の時代ですが、早め早めに取り組んで活路を開いて下さい。